

夫の発病で心労過労ストレス

北島 武子



河童さん

10月17日のバス旅行はお天気に恵まれ、皆さまとの会話を楽しみながら、柳田國男記念館では昔懐かしい田舎の家を思い出し、近くにある河童の出る池で笑い、好古園での素晴らしい庭園を眺めて、久しぶりに病気を忘れてのんびりと一日を過ごさせていただきました。お世話をしてくださった皆様に感謝しています。

私の夫も郵政^{すみだ}角田寮

“中皮腫”この聞きなれない病気を耳にしたのは、22年前でした。

11月の中頃、主人から「肺に影があると会社の健康診断で言われ、市民病院で再検査したら、肺結核かもしれないので、豊中の肺専門の刀根山病院を紹介された。結核だったら3ヶ月は入院しなくてははいけないらしい」と言われ、いまだき結核？とビックリしました。

すぐ入院しても検査、検査で治療する気配がなく、本人はいたって元気で、検査のない時は家に帰ってきたり仕事をしたりと病人らしくなくて、私もまさか死に到る病気などとは予測もしていませんでした。

3ヶ月過ぎても治療をしないのでだんだん不安になってきた矢先、主治医の先生から「実は“胸膜中皮腫”と言う病気はこの病院では治療も手術もできませんので、京都大学の胸部疾患研究所に紹介します」と宣告され頭の中が真っ白になりました。

それから1カ月後の1993年（平成5年）4月左肺を全摘出しましたが、3年の宣告をされ、その後温熱治療もしていただきましたが、1回目の治療中に倒れ、中止になり薬のみの治療で4年後の1997年（平成9年）1月に56歳で亡くなりました。

主治医の先生から以前どこで生活していましたか？と聞かれ、結婚するまで尼崎の郵政宿舎（浜字角田、クボタの北向かい）にいたので漠然と「公害による病気かな～」、でも、「尼崎にいたのは30年前の事だし～」と思うくらいで、それ以上考えたり、調べたりする余裕が当時の私にはありませんでした。

中皮腫・3スベス疾患者・患者・家族の会
尼崎支部発行「尼りかん」
第47号(2015.11.20)

私も働けなくなった

それから8年後、アスベストの環境ばく露を伝えるニュースをテレビで見てこれだと思い、子供時代同じ場所で育って同じ場所で亡くなった平田彰さんの御家族にお電話して、お兄さんの忠男さんと二人で関西労働者安全センターを訪ねました。

それからはお世話してくださった古川現会長、関西安全センターの片岡さん、尼崎安全センターの飯田さん、最初の証言者3人の患者さんを中心にクボタとの話し合いに参加、『クボタショック』としてマスコミ報道され、皆さまのご尽力で被害者の補償と救済に繋がりました。私自身主人の発病以来の心労過労ストレスで潰瘍性大腸炎（難病指定）にかかり入退院を繰り返し、働けなくなりクボタの救済金には正直、助かっております。

新薬の治験が始まったとのことで、皆さんの希望と祈りがすぐそこまで来ていると思います。



白く美しい姫路城

患者と家族の会 事務局 さま

いつもお世話になります。

118号会報に4月20日から、石綿救済法の見直し議論があるということで、何もお役に立ちませんが、中皮腫と戦っている夫の日常をお話しして、何か議論に反映できるヒントにでもなればと思い書きました。

昨年6月に病名が決まり、延命治療だけですよと言われ、入退院をしながら4回の抗がん剤治療をしました。その間に救済申請をし、今は月額10万円ほどの給付を受けております。給付が始まったころは、思いもよらないことに、これで病人に充分なことができると思っていました。だが、4回の抗がん剤治療の後、外来で3週間に一度の抗がん剤をすることになると、治療の後2週間ほどは吐き気やめまいや食欲不振になり、体力が無くなり、とにかく食べさせなければと病人の口にできるものを買えば、想像以上の食費が嵩むことになりました。

通院には毎回タクシーしか方法がなく、交通費もかなりの出費です。

常に寒さを訴えていましたが、冬に向かって行くにつれ健常者にはわからないほどの寒気を訴え、家にあるエアコン、電気ストーブ、床カーペットと暖房器具はフル回転で、食費に加えて光熱費もかさんでいます。

抗がん剤の影響かどうかわかりませんが、泌尿のため昼夜たがわず、二時間お

きにトイレに行くので、泌尿器科の受診や視力も急激に落ちて眼科の通院、メガネの買い替え、また体力が落ちたことによる带状疱疹で1週間の入院と、中皮腫による弊害と思われる病気が次々起こり、その度に医療費や家族の交通費など想像をしていなかった出費が続いています。

初めは有難く思っていた救済費でしたが、1か月の10万はすぐになくなり、蓄えから補てんが続き、今また新たな定期を解約しなければならないというのが現状です。労災並みの支給があれば生活が少しは楽になるのではないかと、思うこの頃です。頭で考えるより実際は思いもよらないほどの出費がいるものだと経験をして感じています。

日常をありのままに書いてみましたが、どなたも経験しておられることばかりかもしれませんので、お役には立たないかもしれませんね。夫は今アリムタの効き目が無くなり、あまり効果がないと言われている抗がん剤を試してみるのが良いか、緩和治療が良いか迷っている所です。緩和治療と聞いた時は、残された時間が僅かなように思えました。もう少し体力をつけて、本人はもう一度抗がん剤治療を試してみたいようです。会報に「今年も春がやってきた」の中皮腫7年生の さんのような明るい話題は夢を貰えて、こちらも希望が出てきます。